

宮崎県尾前マンガン鉱床調査報告

稲井 信雄*

Résumé

Manganese Deposits of the Omae Mine, Miyazaki Prefecture

by

Nobuo Inai

The Omae Mine is situated at Shiiba-mura, Miyazaki Prefecture, about 90 km west of Tomitaka station, Nippō line.

Manganese deposits occur in form of slabs in Paleozoic chert. The ore minerals are manganese dioxide, rhodonite, etc. The ore grades are estimated at Mn 50% and SiO₂ 10%.

要 旨

昭和28年8月宮崎県椎葉村尾前鉱山のマンガン鉱床を調査した。

鉱床は古生代の珪岩中に胚胎する。

本鉱山は開発初期のため詳細は不明であるが、鉱体はレンズ状で、雁行し、走向N70°E、傾斜40~50°Nである。調査当時5鉱体が確認されていた。鉱石品位はMn 45~50%と見込まれ、今後坑道探鉱によつて鉱床の実態を把握すれば増産の可能性がある。

現場 $\xrightarrow[240m]{\text{索道}}$ 木馬路 $\xrightarrow[2km]{\text{索道}}$ 尾八重 $\xrightarrow[90km]{\text{トラック}}$ 富高駅

3. 沿 革

本鉱山は昭和18年頃から開発され、終戦後は休山の形となつていた。昭和24年末主として露天掘により稼行に着手し、一部には坑道掘進を行つていた。昭和27年度には約60tの出鉱をみた。その売鉱品位はMn50%前後あり、マンガン品位の高いことで知られている。

1. 鉱 区

鉱区番号 宮崎県試登 3,956号
 鉱区面積 11,800アール (360,000坪)
 許可月日 昭和27年12月16日
 鉱業権者 宮崎県東臼杵郡椎葉村
 年岡喜佐一
 鉱 種 マンガン

2. 位置および交通

現場の位置

宮崎県東臼杵郡椎葉村大字尾村

本鉱山は椎葉村の北西部を占め、上椎葉より約12km

耳川上流の左岸、滝部落附近にある。

現場に至る経路

日豊線富高駅 $\xrightarrow[80km]{\text{バス}}$ 上椎葉 $\xrightarrow[10km]{\text{トラック, 徒歩}}$ 尾八重
 $\xrightarrow[2km]{\text{徒歩}}$

現 場

搬出経路

4. 地 形

本地域は耳川上流左岸、海拔標高1,200m前後の山岳が重畳し、地形は急峻である。現場は海拔標高約800m準にあり、滝部落よりさらに60mの高位置を占めている。

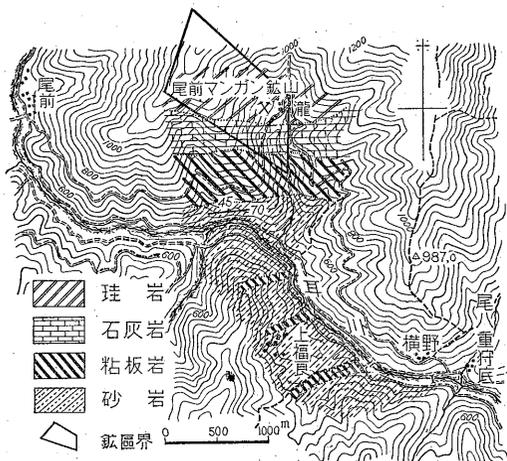
搬出は軽索によるが、滝部落から尾八重までの間約2kmは木馬路による。

現場附近には平坦地がなく、選鉱場、見張小屋は山の斜面を利用している。流水に不足し、手割選鉱で貧鉱はそのまゝ放置されている。

5. 地 質 (第1図参照)

附近の地質は古生代の砂岩・粘板岩・石灰岩および珪岩よりなり、一般に走向N70°E、傾斜40~50°Nである。珪岩は灰色または灰黒色で千枚岩状のものもある。石灰岩は幅300mで、延長数kmに達する。粘板岩および砂岩はいずれも硬質で、部分的には褶曲がはなはだしところがある。

* 福岡駐在員事務所



第1図 鉱区位置および附近地質図

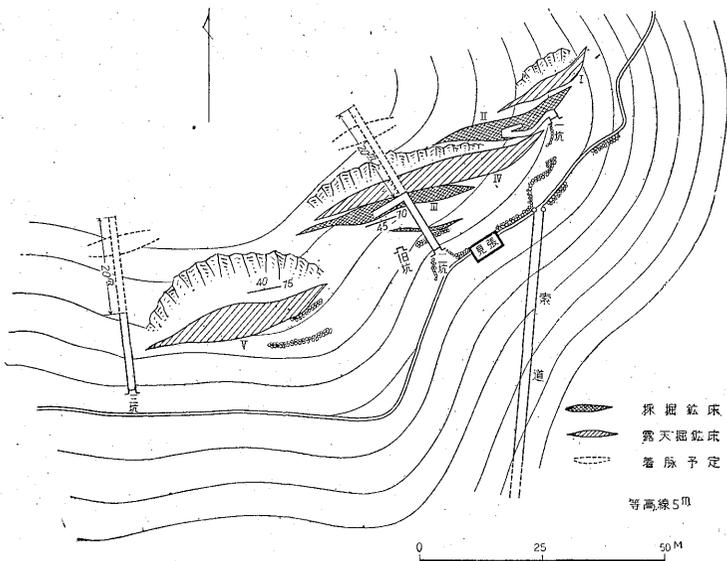
6. 鉱床 (第2図参照)

鉱床は古生代の珪岩中に胚胎し、雁行状に配列するレンズ状小鉱体の集合よりなり、上下盤は粘土化作用を受けている。

鉱体の走向はN65~70° E、傾斜は40~45° N、露頭延長は10~30m、最大鑛幅は2mで、調査当時5鉱体が確認されていた。露頭の大部分は露天掘りによって採鉱されている。

鉱床附近の珪岩は硬く、もろく、かつ細粒にくだけ易く、上下盤には粘土が多い。鑛幅は一定していないが、厚いところは2mもあり、粘土層を多く夾んでいる。

品位は一般に高く、二酸化マンガンは露頭に多く、鑛押坑道には二酸化マンガ・バラ輝石・菱マンガ鉱が



第2図 尾前山地形および鉱床図

おもに胚胎し、脈石は黄鉄鉱・石英等である。精鉱品位はMn 45~50%, SiO₂ 10%前後と見込まれる。

7. 埋蔵量 (印刷省略)

8. 現況

稼行坑道 一坑および二坑
 探鉱坑道 三坑
 選鉱 ズリ抜き程度の手選
 出鉱 最近の売鉱成績は次表に示される通りである。

年月日	数量(t)	Mn (%)	SiO ₂ (%)
26. 12. 28	11,560	4,228	9.50
27. 3. 30	11,070	4,996	6.33
27. 5. 1	5,950	3,335	22.40
27. 6. 17	14,610	4,741	6.67
27. 8. 18	11,810	4,682	9.33
27. 10. 13	8,820	4,917	6.47
28. 3. 21	11,120	4,767	8.93
28. 7. 一	6,870	5,050	—

売鉱先 広畑興業株式会社、八幡製鉄所
 設備 見張、索道2本、(240m, 360m)、木馬路(約2km)
 労務者 男 6名、女3名

9. 結論

最近までは露天掘りを主として採掘されていたのであるが、将来は坑道掘進によって採掘すれば、品位が向上するとともにその数量もまた増加するであろう。このためには二坑および三坑の鑛入を進め、露天掘鉱床の下部に達させる必要がある。数100t程度の小鉱体であるが未探鉱鉱床が稼行鉱床の西部地区にあると思われるので、地表探鉱が必要である。

(昭和28年8月調査)